



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	景気循環と農業簿記
Author(s)	渡辺, 侃
Citation	季刊農業経営研究, 3, 6-7
Issue Date	1958-02-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36256
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_6-7.pdf



景気循環と農業簿記

渡 辺 侃

敗戦後13年になる。戦争後10年好天が続き景気もよいというのが、私の経験上一第一次世界大戦後のこと一の予測であつた。その後は不作が来、また不景気になる心配がある。すでに軽い不作が来たし、多少の不景気が来ている。今後もつとひどい不作と不景気が来ないともいられない。

札幌気象台の斎藤博英氏が「北海道農業」の昨上半期のものに書かれた北海道気候変化の研究では、明治時代が大体に低温の時期で、大正から昭和の今日迄が高温の時期である。昭和35年頃から再び低温が30年位つづくかも知れぬという。60周年説と見られる。しかし高温の時期にも低温の年があり、低温の時期にも高温の年がある。低温年が多く出るかも知れないというだけであろうが警戒の必要がある。30年、10年、3年の周期を見なければならぬ。景気は、一時悪くなりかけたが、

朝鮮戦争以来高調を続けてき、最近低調になつているが、1930年(昭和5年)から約10年もつづいた大不景気程下ることあるまいと皆信じている。これは前の時より政策が行届いているためであろう。昭和初年の金輪解禁は未曾有の冒險で失敗であつたと思う。米統制撤廃はどうであらうか。

今日の農家の負債は一ヶ年の総収入に匹敵する額になつている。しかし見様によつては其位の負債は大したことでない。もつとも、金利は一割以上になるから、安心は出来ない。

金利高の原因を私は物価騰貴に帰する。物価が下る傾向にあるならば、たとえ利子がやすくても、貨幣や預金や債券を持つた方が得である。あとで物を買つた方が有利だから。反対に物価が騰貴する場合、物や権利や株券が買採される。借金しても得になる。政策的には物価を上げるようにすることが多い。それだけ金利を上げるわけで、事業には不利である。勢い、自己資金を作るか、特別な政府や組合の資金を作る必要が出る。すなわち借金経営はインフレ経営というべきである。

今後景気が特別によくなる見

込はなく、不景気にも備えなければならぬのであるから、節約蓄積は必要である。それには簿記をつけることが最も適當である。各農家が自らの経営と家計を判断せねばならずそれに基いて指導施策せねばならぬからである。

簿記の必要は第一に農家が自己の経営に秩序をつけることにある。「汝秩序を保てば、秩序汝を保つ」という格言を、アーレボー先生はその簿記奨励の標語とした。簿記の形式は何でもよい、つけばよい、ともいつた。しかし、最近簿記方法は種々研究されて、簡単に精確になつてきたから、講習を受けて使うのがよい。速に仕訳し、予算にあわせることにすれば特によい。

簿記必要の第二は農家調査である。大蔵省関係で所得を申告するとき、農林省関係で経済状態を報告するとき、これのみが精確な資料となる。理論上かくすべきでない。ラウル先生はこれが唯一の経営研究資料だといつている。だが簿記を分析して研究することは容易なこととはいわれず、また少数結果では全体の状況を表すことは出来な

経営方式	所 在	経営主の年齢	農業従事者家族	耕 地		資 本 額	総 収 益	資本費用	労働費用	地代及び子利
				田	畑					
田作	東 鷹 巢	51	7	7.08	65	1,330,543	1,815,748	488,347	573,168	190,514
"	東 旭 川	36	6	3.55	21	894,816	1,149,465	294,434	221,137	122,326
畑作	名 寄	38	3	—	6.40	1,421,714	1,098,556	877,999	209,350	154,600
"	訓 子 府	48	7	.70	13.34	1,355,275	1,869,958	794,623	363,762	209,389
"	大 樹	31	4	—	16.85	1,195,594	766,210	681,832	231,947	206,383
主畜	八 雲	26	4	—	6.80	1,343,757	909,275	531,125	191,608	159,426
"	早 来	46	6	—	11.48	3,537,708	1,655,472	1,377,256	470,741	406,310
"	鹿 追	28	6	—	15.60	3,260,178	2,323,340	1,622,807	352,550	538,241
"	根 室	56	5	—	4.48	2,735,678	1,703,822	1,357,885	277,491	344,754

い。少数例外から最近の農業経済状態を示すのは農林省の農家経済及び農業経営調査結果である。苦心し、また金をかけた大冊の出版であるが、利用者がどれだけあるかをあやぶむ。折角だから利用させていただく。

此の例で見ると黒字農家が5、赤字農家が4で、赤字のないのは水田農家だけである。もつとも、この例の水田農家は中核水田地帯で畑作及び主畜農家は中核地帯のそれではない。気候がよかつたという昭和30年でこの通りであるから簿記をつけて予算生活を立てねばならないことがわかんと思う。

(北大名誉教授農博)

農業経営と市場取引

川 村 琢

1. 小農Peasant 生産と農産物の販売

北海道の農業は多数の小農によつて営まれている。小農の生産における色々な特殊性は市場Marketing 取引の面における主な特徴は次のようにいうことが

出来る。

- (1) 生産量や販売量が小量であること。
- (2) 生産物の規格が雑多で、品質も形態も不統一であること。
- (3) 生産が自然条件に左右され生産物は腐敗性がつよく、販売は出来秋に集中していること。

以上の条件は農産物の販売を著しく不利ならしめ、その結果農産物の販売に対して与える主な影響は次の如きものである。

- (1) 価格の変動がはげしく、価格は比較的不利に定められ、とくに端境期における相場は著しく低目である。
- (2) 市場までの集荷 Assembling 費用がかさみ、配給 Distributing 費、貯蔵 Storage 費もまた大きい。
- (3) 季節の変動を利用する、商人に、出来秋の買たたき、端境期の売おしめで、原則的に多額の利益を与え、農民の手取り、産先相場は不利となる。

以上の事情は北海道の農業ではさらに増大されるものといわねばならない。その理由は、

- (1) 自然条件からいつて、年一回の収穫であり、畑作では各種の生産物を著しく少量づつ生産していること。
- (2) 多種類の生産のため規格の不統一Grade が著しい。
- (3) 大消費地市場から遠くはなれていること。
- (4) 価格は大消

費地市場で決定されていること。

- (5) 海外市場と競合する生産物が府県より多いこと。

産先価格は、以上の理由で、北海道は府県よりも低い。ここに、北海道での農業協同組合の発達が府県より進んでいる理由の一つがある。

1. 市場取引の改善

以上の北海道農業の市場取引を改善するために以下の方法がとられている。これを大別すると価格調整の方法と市場取引機構の整備である。この2つは相互に関係しあっていることはいうまでもない。

- (1) 価格の調整について。

㊤ 国が価格を統制し、凶作に対しては農業共済 Agricultural insurance 制度で補償するシステム。ここでは統制された価格が農家の生産費を補償するかどうか、主な問題である。米が唯一の例であるが、ただ北海道では、等級がおとつていることと早出奨励金をうけるための時期が、一般に府県より不利であるため、この改善が、必要である。

㊥ 農家が協同組合を通じて自治的に価格の統制を行うシステム。自治的に価格を統制出来るのは集荷機構と配給機構を協同組合が独占し、生産の制限は農産物の検査制度と生産に必要な原原種を統制することによつて達成されている。この例は種子馬鈴薯にみられる。ただ、その価格が種子の需要者たる農民に満足を与えうるかどうか問題である。

- ㊦ 自由商品である豆類、と

税等負担	税引農業所得	家計費	差 引
201,663	1,102,812	924,258	178,554
58,555	780,808	520,731	260,077
41,920	181,842	451,036	— 269,194
118,143	969,893	771,674	198,219
25,717	62,380	247,208	— 184,828
29,603	359,516	246,333	113,183
53,558	178,844	535,156	— 356,312
229,913	471,696	437,990	33,616
51,432	341,102	763,203	— 422,101